

JICA 教育訓練委員会

3.1 委員会の設置経過

1974(昭和49)年に名古屋国際研修センター(現:中部国際センター)に故益本 功(名古屋大学教授)や溶接関連企業の協力で「溶接技術研修コース」が開設された。当初は日本溶接協会の溶接技術者資格認定試験に合格するように、カリキュラムが計画されたが、1986年頃より、欧州溶接連盟(EWF)の教育カリキュラムを基本とする国際的な教育カリキュラムを採択し、溶接技術者の

教育・訓練を名古屋大学、三重大学、大阪大学などや日本鋼管(現:JFE)、新日本製鐵、大阪変圧器(現:ダイヘン)など多くの企業の関係者、溶接専門家の協力を得て実施してきた。1989年より、当協会にJICA(国際協力機構)教育訓練委員会を設立し、このJICA溶接研修コースの立案、研修実施、フォローアップを行ってきた。

3.2 委員会の活動経過

これらの研修生は4月初旬から約6ヵ月間、名古屋の国際センターに滞在し、溶接技術の基礎理論から応用まで見学や企業内研修も含め、800時間以上の教育・訓練を受ける。本研修コースは工学系大学を卒業し、数年の溶接関連業務の経験を有する技術者を対象としている。国際溶接学会(IIW)の溶接資格認定制度のMinimum requirementを満足すべき内容のカリキュラムを採用している。すなわち、

- ・溶接法の発達と各種溶接法の概要、
 - ・溶接冶金および金属工学の基礎、
 - ・各種溶接材料、
 - ・各種金属および合金の溶接、
 - ・溶接力学、溶接設計、溶接施工、
 - ・各種溶接機器の取扱い、
 - ・破壊試験および非破壊検査、
 - ・安全衛生、品質管理
- などの理論と実際について応用的知識を講義および実習を行い、その適切な応用によって溶接設計、

施工管理および必要な技術者教育ができる溶接技術者の育成を目標としている。

また、目標の達成度を確認する意味で、IIW資格日本認証機構(J-ANB)の認証教育訓練機関(ATB)としてIIW資格を取得するための所定教育プログラムを実施し、評価試験を受けることができる。本研修コースではIIWの実施している溶接技術者資格認定制度に基づく教育・訓練を実施し、その卒業証明書としてのDiplomaを取得できるように指導している。

2000年から、このJICAの研修コースはIIW溶接技術者資格認定制度におけるATBに認定され、このコース終了試験を分野ごとに実施、合格した者はIIWの資格試験を受けることができ、IIWの資格を取得して帰国することができるようになった。JICAは当時602コースあり、これらの研修コースの中でも国際資格が取得できるコースの一つ(2コースのみ)として高く評価されている。

3.3 この10年の経過

JICAの中部国際センターにおける溶接技術研修は35年目を迎えており、56カ国の開発途上国の溶接技術者を育成してきた。写真3.1に研修中の状況を示す。この研修生達とのネットワークを構築することは研修生にとっても、日本の溶接界にとっても大きな意義があり、1つの財産である。2000年より、JICA溶接技術者研修コース関係者および企業、JICA関係者および研修生(311名)とを結び写真3.2に示すような『JICA Welding News』(A4版で16ページ)を発行してきた。

当協会のホームページ(<http://www.jwes.or.jp>)で本JICA研修コースを紹介したり、最近では当協会のE-mailやコースリーダーのE-mailなどにより帰国研修生との連絡もとっている。中部国際センターではホームページを開設し、研修生との交流を図っている。

JICAでは2004年度より、フォローアップを兼ねた海外でのセミナーを実施している。国際溶接技術者研修コースでは、2005年3月14日、15日に、マレーシアのクアラルンプールで「JICA アジア国際研修セミナー」として開催した。

マレーシアを始め、バングラデシュ、中国、インド、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、モンゴル、ネパール、ベトナム、シリア、ザンビアから計40名、日本から7名、マレーシアの準備関係者3名の計50名が参加して、次のような内容でセミナーが開催された。

(1) 目的

帰国研修員の活動把握および帰国研修員ネット



写真3.1 企業内での溶接実習の例

ワークの形成ならびに日本溶接協会と連携したアジア溶接連盟の活動の紹介。

(2) 期待される成果

- ア) 帰国研修員の活動状況が把握され、研修コースに反映される。
- イ) アジア地域において、帰国研修員のネットワークが強化される。
- ウ) 帰国研修員の活動が活発になり、JICA事業との連携および我が国との溶接技術での協力が強化される。

(3) 本邦の溶接技術関連専門家の派遣(7名)

宮田隆司(日本溶接協会会長、アジア溶接連盟AWF会長、名古屋大学副学長)、黄地尚義(大阪大学)、杵名宗春(JICA教育訓練委員会委員長、名古屋大学)、高橋邦夫(東京工業大学)、野村博一(JFE工建 社友)、角田隆太(トクヨー工業専務)、安蔵泰夫(日本溶接協会JICA教育訓練担当職員)

(4) セミナー議事

3月15日：開会式、

歓迎のことは：Dr. Samsudin Bani, マレーシアの工業技術院SIRIMの溶接・検査プログラムのリーダーで、1985年に当研修コースで研修

開会の挨拶：

- 杵名宗春 JICA教育訓練委員会委員長
- 井倉義伸 マレーシアJICA事務所 代表者
- 宮田隆司 日本溶接協会会長

基調講演：

JICA 国際溶接技術者研修コースの現状(杵名宗春)

アジア溶接連盟の活動紹介(宮田隆司)

アジア溶接連盟若手研究者セミナー紹介(高橋邦夫)

JICA WELDING NEWS, No.1 NAGOYA, MAY 15, 2000

PREFACE

Mr. Yukio Nakajima,
Managing Director of CBIC

It is my great honor to send my congratulation to the publication of International JICA WELDING NEWS marking 25th anniversary since the start of Welding Courses in NITC seeing off more



news last year. Thank you very much for your great contributions for the first Welding News, i.e. letters/e-mail with photographs and/or CD. When I was editing your articles, I remembered so many things which I had experienced in supporting this course since 1974, when I was working at Kawasaki Heavy Industries Ltd. After coming back to Nagoya University, I have been fully charged in this course with former Prof. Itao Masumoto and the other experts. It was a great pleasure for me to take care of the participants who were eager to learn a modern welding technology in Japan. After the decease of Prof.Masumoto, this course has been arranged and taken care of by the JICA Committee

写真3.2 研修生のネットワーク作りを目指す JICA Welding News No.4 の表紙



写真 3.3 JICA アジア国際溶接セミナーの参加者

溶接要員資格認証制度について：

日本溶接協会の溶接要員資格認証制度（野村博一）

タイ溶接協会の活動（Ackadech Lersvanichkool, タイ溶接協会副会長）

フィリピン溶接協会の活動（Angelito V. Zulueta, フィリピン溶接協会会長）

シンガポール溶接協会の活動MOSの紹介（Ang Chee Pheng, シンガポール溶接協会会長）招待講演：

溶接機器の現状（Tong Hongjun, ダイヘンチンタオ工場長, 元研修生）

溶接材料の現状（Ackadech Lersvanichkool, タイ神戸主任技師, タイ溶接協会副会長）

帰国研修員の活動状況…20件

帰国してからの開発途上国での活動について非常に興味ある講演がなされた。

帰国研修員ネットワークの構築についてのパネルディスカッション

(5) フォローアップセミナーの成果

ア) 帰国研修員の国の溶接事情およびかれらの活動状況が十分把握された。

イ) 帰国研修員からのニーズ、要望が理解でき、現在実施中の集団研修に反映できる。

ウ) AWFを中心に、帰国研修員ネットワークが構築され、国際協調を推進できる。

この時の参加者を写真3.3に示す。

2004年よりコース名が変更され、「国際溶接技術者」研修コースとして続けられている。なお、2006年よりIIWの国際溶接検査技術者の資格についてもDiplomaが取得できるように2週間余期間を延長し、日本溶接技術センターで研修と最終試験が実施されている。

アジアの工業生産の拡大とともに、溶接要員の認証問題が現実問題としてクローズアップしてきている。2004年7月に大阪で開催されたAWF（アジア溶接連盟）設立準備会議にはインド、インドネシア、中国、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、シンガポール、韓国、日本の代表が集まり、その規約案の議論と役員を推薦を行い、同年10月にAWF（アジア溶接連盟）が結成された。これら加盟国の溶接学協会リーダーの中にはかつて、JICAの本研修コースで学んだ研修生（タイ、マレーシア）も含まれており、今後、このような人材との交流を通して、日本への理解を深めてもらい、国際交流がスムーズに進むことを期待している。